

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	館長	課長補佐	係長	記録

【所属名：教育委員会文化振興課（博物館）】
【会議名：糸魚川市博物館協議会 全体会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 平成 26 年 5 月 30 日

日	平成 26 年 5 月 16 日	時間	14:00 ~ 16:20	場所	フォッサマグナミュージアム ホール
件名	議題(1) 報告事項 1～6 (公開)				
	議題(2) 協議事項				
	① 平成 26 年度博物館協議会の活動計画 (公開)				
	② 平成 26 年度事業計画、活動計画 (公開)				
出席者	③ 博物館リニューアルについて (公開)				
	【出席者】 8人 専門部会 梶座副会長 天野委員 大塚委員 運営部会 片山会長 伊藤委員 岩崎委員 中村委員 野本委員				
	【欠席者】 2人 専門部会 松岡委員 運営部会 大西委員				
	【事務局】 博物館 田村館長 宮島館長補佐(参事) 竹之内館長補佐(学芸係長) 杉野係長(業務係長) 茨木主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	1人

会議要旨

1 開会 (14:00)

【事務局】 館長あいさつ

2 議題

(1) 報告事項

【事務局】 報告事項 1～5 について説明。

- ・報告事項 1 平成 25 年度博物館協議会の活動について
- ・報告事項 2 入館状況について
- ・報告事項 3 ミュージアムショップ運営状況について
- ・報告事項 4 博物館諸活動(業務係担当分)について
- ・報告事項 5 博物館諸活動(学芸係担当分)について

質疑

【会長】 新春臨時開館の入館者が昨年より 400 人も増加した要因は何か。

【事務局】 暦に余裕があった。無料入館に続く 4・5 日が土日だったので、帰らなくてもよい人

が多かった。天候に恵まれた。

【館長】 年末、正月に帰省してきた方が多い。

【事務局】 孫連れのお客さんが多い。

【委員】 無料で来られた方に、次回の案内や、アンケートをとるなどのアクションは起こしたのか。

【館長】 起こしていない。

【委員】 PR や、アンケートをとるなどした方がよい。

【会長】 減免で入館した小学生には無料入館券を配るとよい。次は親を連れてきてくれる。他でそれをやって成功した例がある。

【委員】 まるごと調査隊の参加者が多いことについて、理由は何か。

【事務局】 学校行事と重ならなかったためと思われる。

【事務局】 お母さん方の口コミで評判が広がっている。

【委員】 対象は中学生も入るのか。

【事務局】 対象は小学3～6年生。

【委員】 大学も増えているようだが、どのような学部か。東工大はどうして来ているのか。

【事務局】 丸山さん（東工大）のつてで来ている。丸山さんはフォッサマグナミュージアムの開館にも関わっている。来るのは定番になっている。

【事務局】 ほとんどが理学部の地学系。奈良大学は考古の教室。観光系の大学はない。立正大学は環境系。

【委員】 大学関係はどのような大学の授業で来ているのか。

【事務局】 東工大は、単位が出る野外見学、館だけでなく近隣も含めて巡検をしている。山形大も巡検、山口大も大巡検、ついでではなく主目的。

【委員】 教員免許の更新講習などで利用したいと思うが、1日でもまわるにはちょっと距離がある。

【事務局】 地震学会でも研修と野外見学を実施した。

【委員】 学芸員資格取得のための実習はあったのか。

【事務局】 資料20ページにある。

【委員】 ジオツアーを毎年継続して開催していることはありがたい。ジオサイトのPRも大事。続けていただきたい。障害保険には加入しているのか。

【事務局】 レクリエーションの傷害保険に加入している。それ以外にも市で保険に加入している。

【委員】 実施したものの集計について、グループごとにまとめて分析しないと、検証ができないのではないか。学校関係であれば小学校、高校、大学、市内・市外、大学なら何学部か、などにまとめていくと、次に役立つことができる。学校関係以外でも、ジオツアーについても、計画段階で目標人数、対象、市内市外かななどを設定して、検証していかないと、経営学でいえば弱い。

【事務局】 その通りです。

【委員】 ジオツアーについて、見学に適した時期を考慮して計画するとよい。

【事務局】 季節については考慮している。しかし適した時期以外にも実施している。

【委員】 そうであると、記載の仕方にジオサイトだけでなく見学対象も記入すると理解しや

すくなる。

【事務局】 ジオツアーは特定のものを見せるのではなく対象は広範にわたるので、記載の仕方はむずかしい。主目的を記入するとわかりやすい。

【事務局】 ジオツアー4の「街中富山公園・博物館」は参加人数が少なかった。主眼は街中で、清崎城の遺構や城の川、砂丘など、昔の地形と街の発達であったが、魅力がなかったのか。伝え方・宣伝方法を考えないといけない。

【委員】 検証により、打ち出し方が弱かったか、周知のしかたが弱かったか、などが見えてくる。

【会長】 誘客宣伝について、観光協会に同行するのはあまり効果がない。この地域の温泉旅館の営業に同行したり、ツアーの行程に入れてもらう、などを選択肢に入れてほしい。

【会長】 ショップの売り上げの、ヒスイの委託販売は、ここに入っていないのか。

【館長】 「根付」に入っている。ベスト4の売り上げ。

【会長】 (世界ジオパークによる販売の) 規制が無い時はもっと売れていたか。

【事務局】 比べものにならない。化石等も含めてだが。

【館長】 地元産のヒスイであればという条件で売っている。

【館長】 客単価というものがある。ゴールデンウィークから土産物(菓子類)の販売を始めた。全体の売り上げは増えたが、ヒスイの根付は売れなくなった。それまでヒスイが売っていた分がお菓子に変わった。今後も売れるものについて検討しながら続けていきたい。

【委員】 学校教育、団体への対応、自主事業が非常に多いが、学芸員3名で担当している。国内の博物館でもトップレベルの過密さだと思う。学芸員は次の事業の準備の時間がないと、今のままのレベルにとどまってしまう。学校現場では正規の県費の教員以外に、市費・町費で雇った講師・補助の人員を用意することが普通になってきている。糸魚川は日本で一番注目されているが、そのようなことを計画に入れたほうがいいのか。

【館長】 私が答えられることではない。過密であるため、職員増について働きかけた。対応できる職員は採用されたが、修行という意味もあり違う部署に配属になっている。その職員に博物館との兼務辞令が出ていて、こちらの手が足りない時に手伝いに来てもらえる。現状を継続するか事業を減らすのかという選択は、現状を継続して、人的な不足は補填の方法を考えるということになる。

【事務局】 学校教育の現場について、糸魚川市として2~3年前からジオパーク学習・理科教育の副読本を4種類ほど作成し、さらに教員を対象とした研修を何度か開催し、学校の先生が学芸員に頼らなくても自力でジオパーク学習の授業ができるような取り組みをしている。まだ顕著な成果は出ていないが、学校の先生が自力でできるように環境を整えていきたい。

【事務局】 ジオパーク観光ガイドの中で、案内できる人が増えている。そのようなガイドに、学芸員の代わりにガイドしてもらおう機会を増やそうと考えている。しかし有料のガイドなので、お金の問題がある。これまで学芸員がやりすぎだったが、今年度は減らす。

【委員】 年間200件くらいの案内をしていることになる。

【事務局】 その反動で、できていないこともある。調査研究、標本の整理などが遅れている。

【委員】 大学関係で来る場合は、半分以上は知り合いでしょう。それなら来る側に説明をお任せすることができる。統計上の案内の実績を残すのであれば案内をすることになるが、実績を捨てて案内しないと割り切るか。

【事務局】 大学の先生が説明できない内容を私たちが説明している。

【委員】 新潟県の高校の入学試験にジオパークに関連した問題が1問出題された。上早川小学校の子供たちは岩石のことをよく知っている。学芸員から指導を受けたため、20分くらい話すことができる。10ページのジオ講座「ジオパークでお酒を科学する」についての経緯を教えてほしい。12ページの東大のジオパークフォーラムについても教えてほしい。

【事務局】 根知の渡辺酒造の社長さんから申し入れがあった。社長さんはアイデアマンで、男山を全国に普及したいと考え、傘下の卸の酒屋さんを10数名全国から集めて、研修会を開いた。よい企画なのでこちらも乗って、一般の方にも公開した。ここ3年ほど継続している。

【会長】 男山さんはヨーロッパの酒の品評会で金賞をもらっている。

【事務局】 ワインを販売している方を招いて講演してもらったことがあるが、ヨーロッパではワインを展示する時に畑の土や石を展示する。大地がその味をつくったことを示すため。根知の男山は日本版のそれ。傾斜地で田んぼに段があり、それぞれの面でできが違ふ。一番いい出来のところだけ集めて（他とまぜないで）使う。テロワールという言葉がある。一般の人にも聞いてほしかったが2～3人だった。

【会長】 酒蔵見学もあるが、まず田んぼを見る。ヨーロッパではワインよりまず農場を見せるが、そのような感覚か。

【事務局】 男山さんは糸静線が酒蔵の真下を通っているらしい。井戸がその両側にあって水質が違ふというのがジオパーク的なネタ。

【会長】 水の試飲をやらせてくれればいい。

【事務局】 東京大学でのジオパークフォーラムは、糸魚川のジオパーク検定が東京会場でも受けられるようになった。東京大学庭師倶楽部の宮さんにアレンジしていただき、会場を東京大学農学部の弥生会館とした。前日には、専門家を招いてのパネルディスカッション、ジオパークの勉強会をおこなった。参加者は40名ほどで、糸魚川から参加したお子さんもいた。

【事務局】 報告事項6について説明。

・報告事項6 博物館リニューアルについて

※質疑は協議事項4（博物館リニューアルについて）の後に行なった

(2) 協議事項

【事務局】 協議事項1～3について説明

- ・協議事項1 平成26年度博物館協議会の活動計画
- ・協議事項2 平成26年度博物館事業計画（業務係担当）
- ・協議事項3 平成26年度博物館事業計画（学芸係担当）

質疑

【委員】 国際学会誘致はどの程度具体的になっているのか。

【事務局】 M&M は、ミネラロジープラザのことで、博物館で鉱物学を研究している人の集まり。小規模で、参加者は 100 人ちょっと。日本では開催したことがない。4 年に 1 回の開催。今のところ日本だけが立候補している。会場はホール、ふるさと展示室、増築する部屋で開催可能。糸魚川市単独ではなく、日本鉱物科学会も協力する。国際鉱物学連合の博物館委員会の日本代表の委員も関わっている。

【委員】 フォッサマグナパークの保存活用計画について、こちらの腹案はあるのか。

【事務局】 腹案はない。専門委員を 7 名予定している。協議会からは大塚さんに委員長になってもらい、他に大学の先生、文化庁の桂さん、地元の人、学校の先生に集まってもらい、こちらで資料は提供するが、どうするのかゼロから案を作ってもらい、報告書を作ってもらおう。

【委員】 高岡市の例では、国土交通省と企業が組んでしまっている。(断層の) 剥ぎ取りを作って現場に置くなどの案を先に作ったらどうか。土木系の企業が入ると、単なる補修の延長のようなことになってしまう。

【事務局】 もと文化庁の桂さん(天然記念物の保存活用に詳しい)も委員に入るので、他地域の良い例を教えてください。

【事務局】 岩盤制御の専門家も委員に入るので、石垣を剥いだ時にどうなるか、どう見せるかの意見をもらえらる。

【館長】 以前の「ジオパーク戦略プラン」で委託を受けた業者が作った案は、巨大枕状溶岩の前の遊歩道の外側にテラス状の張り出しを作る案で、あまりよい案ではない。もう少し他の専門家の意見を聞いて、まとめてはどうか、ということになっている。断層の石垣、巨大枕状溶岩のシェルター、根知地区全体の周遊性がないこと、を含めて、よい整備方法はないか。

【委員】 教育という意味では川原の方の枕状溶岩でいい。巨大枕状溶岩は、人間の理解を超えた大きさで、わからなくなってしまう。断層については、1 本できれいに引けるわけではない。マクロな視点で見る練習をしてもらい、証拠の 1 か所を見てもらう。学び方のセンスを変えられるようにすれば、文句は出ない。

【館長】 阪神淡路大震災の北淡町の断層のように、段差があるものというイメージを持って来られる。

【事務局】 フォッサマグナパークの断層は、変位(ずれ)がわからない。ただ違う石が破碎帯で接しているだけなので、それをどう説明するのが問題。

【会長】 ガイドの説明があれば見学者は納得するが、個人で行ってもよくわからない。

【会長】 断層の上にドームを作るようなことは、しないのか。

【事務局】 上屋を建てる案は、雨水によって断層破碎帯が浸食されるのを防ぐため。ただ、どのような仕様のもを建てるかが問題だが、ジオパーク戦略プランの案はハイスペック過ぎる。バランスが大切だと思う。

【委員】 上屋を建てたととしても、天然のものなので、苔が生えたり、石が変質したりということがある。

【会長】 抜けてしまうので石垣を作ったのでしょうか。

【事務局】 その通りです。

- 【委員】 フォッサマグナパークの回遊システムはどの規模で考えているのか。
- 【事務局】 現状では断層、枕状溶岩を見て、行った道に戻るようになっていて、対岸の集落まで回して、国道 148 号の駐車場へ戻るようにする。
- 【事務局】 集落には、酒蔵のほか、真柏を展示しているところもある。
- 【委員】 石垣を剥ぎ取って、万一崩れた時のためにケタなしの大きな橋をかけて、露頭には近付かないようにしてはどうか。巨大枕状溶岩も遠くから見るようにして、時々（見学の邪魔になる）木を伐採するくらいにしてはどうか。
- 【委員】 間近に見られる野島断層は、監視の人がいないと破損されるかもしれない。糸静線の早川露頭は前に川があつて物理的に近付けない。
- 【事務局】 早川露頭は崩れたのではないか。
- 【委員】 崩れて、以前とは変わっている。
- 【事務局】 レプリカを作るには、剥がすのか、昔の写真からレプリカもどきを作るか。剥がすととなると大工事になる。
- 【委員】 人が近づいて踏みつけて傷めている。
- 【事務局】 今は前に柵を設けて、普段は近付けないようにしている。石垣はそのまま。石垣は実は石の質を変えている。我々ではなく当時の担当者が考えた。
- 【委員】 ルートは徒歩か、自転車でも行けるのか。
- 【事務局】 自転車も通れる。
- 【館長】 フォッサマグナミュージアムをフォッサマグナパークだと思って来る方もけっこういらっしゃる。電話番号が無いのでカーナビで行くことができない。問い合わせをフォッサマグナミュージアムにしているので、電話番号を入れるとここに来てしまう。何らかの方法でパークの場所を示すようにしないと。カーナビのデータの変更には 2 年くらいかかるので早めにしないといけない。
- 【委員】 学芸員の仕事が多過ぎることについて、現在 3 名いる学芸員の増員については考えているのか。できれば異動・定年なしにしてもらえないか。
- 【館長】 昨年からは再雇用の制度ができた。再雇用の求人があれば再雇用される可能性がある。宮島さんは私と同じであと 2～3 年。10 年おきくらいに 1 人採用できればと考えている。今年 1 人糸魚川市で採用したが、学芸員という枠ではなく一般採用だった。たまたま新潟大学を出た地質を専門とする人が採用されたが、交流観光課に配属になり、博物館は兼務辞令が出ている。博物館が忙しい時には手伝いに来る。2～3 年修行すればこちらに回してもらえと思う。
- 【事務局】 既にゴールデンウィークにこちらに手伝いに来てもらい、化石や石の鑑定をしてもらった。専門は私とほとんど同じで、ヒスイなどを大学院で研究していた。赤井先生のところで鉱物学を学んで学位も取っている。これまでに糸魚川のヒスイの研究もしている。
- 【委員】 休館中はフォッサマグナミュージアムには誰もいないのか。
- 【館長】 職員はフォッサマグナミュージアム内にいる。展示室内は工事をしているが、それ以外の部屋は空調を替えるくらいなので、天井を剥いで空調の機械を替えるが、居場所を移しながら、あるいは外にプレハブを建てるか、考古館に間借りするか、になる。代替展示については先ほど言いました通り、歴史民俗資料館の 1 階に展示する。ヒスイ

については長者ヶ原考古館、休館中にフォッサマグナミュージアムに来た人のために。庁内委員会で説明したところ、他にマリンドリーム能生、親不知ピアパークも含めて4か所で展示することになった。マリンドリームは、ジオパークのパネルを2階の休憩コーナーに展示。ピアパークのヒスイふるさと館には、青海自然史博物館のヒスイなどの標本とパネルを展示する。マリンドリームとピアパークはしばらく展示しておく。歴史民俗資料館と長者ヶ原考古館はフォッサマグナミュージアムの資料を、収蔵庫代わりとして展示させてもらう。

【委員】 休館を知らないで来た人の当日対応、次に来てもらえるような対応をお願いします。

【館長】 休館までには、北陸新幹線の開業日が決まると思われるので、リニューアル開館の日を周知できる。

【事務局】 化石の谷は休館中も使えるように検討している。

【館長】 長者ヶ原考古館の受付をフォッサマグナミュージアムの受付職員がしばらく担当することを検討しているので、希望があれば化石の谷の体験は対応できる。石の相談は休館中は休む。

【事務局】 協議事項4について説明

・協議事項4 博物館リニューアルについて

質疑

【委員】 実際にどうやって石を調べるか、実体験できるコーナーは考えているのか。

【事務局】 薄片室、分析室はガラス越しに中が見えるようにしてある。また、新たに、石の名前を覚えよう、という展示を第4展示室に作る。回転寿司の皿の上に石が乗っていて、センサーの上に載せると画面に情報が表示される。ゲーム性を持たせ、楽しみながら学習できる。他館の例を参考にしている。

【委員】 いろいろなコーナーにあるといい。琵琶湖博物館では、引き出しを引くと中に標本が入っている。学芸員の気分になれる。福井市自然史博物館では、石がプレートになっていて、調べられる。体験型の展示を増やすと、親しみが湧く。今のプランでは県立レベルだが、親しみやすさは少ない。

【事務局】 親しみやすさはこちらの特徴なので、お高くとまらないようにしていきたい。基本は地元の大地的歴史とする。青海の収蔵資料も活用する。見学時間は、現状で1時間くらいだが、リニューアル後は1時間以上かかる。第6展示室は見学しきれない人が多くなると思われるが、これはリピーターにつながるかもしれない。

【会長】 ナウマン博士のコーナーはどうなるのか。

【事務局】 面積は狭くなるが、展示の仕方を工夫し、電子的なシステムを導入するで、提供できる情報量は増える。

【委員】 展示物の高さについて考慮してほしい。小学生以上をターゲットにしているならともかく、保育園児のために、台を置いてほしい。さわれるものも増やしてほしい。YKKはやりかたが上手。職員の手作りのものが多い。

【事務局】 何度か見学したが、見習いたい施設のひとつである。

【委員】 愛知県常滑市のINAXの博物館は、砂や泥が引き出しに入っていて、さわれる。ガラ

ス越しに見学できる石工室は、そのままだとお客さんが（遠慮して）逃げてしまうので「見学できる」ということを表示したらい。

【委員】 分析室は使っているのか。

【事務局】 使っている。分析の依頼があった資料の分析に使う場合と、自分たちの研究で使う場合がある。魚津高校などの実習で使うこともある。実習で使う場合は20人が限界。実習で、石工室で石を切ることもある。

【会長】 リニューアルは日展にやってもらうのか。

【館長】 昨年度の実施設計までは日展にやってもらった。

【会長】 糸魚川駅にもジオパーク情報コーナーがある。

【館長】 糸魚川駅とフォッサマグナミュージアムとで連携していきたい。（額入りのパースで説明）。

【会長】 駅はJR利用者向けの情報発信センター、フォッサマグナミュージアムは車で来る人向けの情報発信センターとして。

【会長】 飲食についてはどうするのか。

【館長】 検討したが、年間6万人くらいでは成り立たない。

【会長】 研修室は飲食可か。

【館長】 雨天の時はホールでも飲食してもらうことがある。80人の団体が2つ来ても大丈夫なように増築する。

【会長】 研修室での飲食ができるかできないか、方針を決めてほしい。利用者が計画を立てられない。

【館長】 展示の細かいことは、専門委員の方々と個別に検討していく。

【委員】 多国語の対応はどうするのか。

【事務局】 基本的に日本語で、必要なところに英語を、直訳ではない表現で使う。中国語・韓国語については、現在使っているペン型の音声ガイドを、中身を更新して使うか。パネル表示は日本語、英語とする。

【委員】 ipadを使っているところもある。

【事務局】 当初は検討したが、予算的に無理である。

【館長】 フリースポットは、ソフトバンクのみ、ふるさと展示室にある。全館どこでも使えるようにしたいが、建物の構造上、電波が届きづらいので、予算がかさむ。

【委員】 説明について、見学する人によって簡単すぎたり難しかったりという問題があるが、どうするのか。

【事務局】 ジオパークの流れから言うと、現在より簡単にする。より詳しく知りたい人のために、不足する分は館長が言った方法の他、QRコード、ホームページ、パンフレット、書籍などで補完する。

【館長】 説明の文字が小さいという指摘は以前からある。情報量が多くなれば字は小さくなる。工夫が必要。

【事務局】 標本のラベルに現在は説明がついているが、削減する。教育に使いやすい展示とする。そのための資料収集をしている。

【委員】 立山黒部ジオパークは今年日本ジオパークに加盟申請をしているが、可能なら連携のための先行投資をしてはどうか。

【事務局】 おそらくジオパーク推進室では考えていない。佐渡も世界ジオパークを目指している。

【委員】 立山黒部も、ジオパークの要素の中に飛騨外縁帯など糸魚川と重複するものを入れている。

【事務局】 立山黒部ジオパークの審査結果は9月に出る。

【委員】 現在のフォッサマグナミュージアム内の展示では立山黒部の情報は、石のプレートくらいしかない。

【事務局】 「よくわかる糸魚川の大地のなりたち」の英語版を作ってM&Mに備えたい。

【委員】 パンフレットの多言語対応はあるのか。

【館長】 日・英がある。

【委員】 中国語とハンガルの需要は多い。中国語でも繁体と簡体は違う。

3 その他

(1) 各部会の日程について

【事務局】 各部会の日程について、運営部会の日程は、例年通り秋ごろに予定させていただいている。

【事務局】 専門部会の日程はメールで相談させていただく。

(2) その他

【事務局】 資料の修正。中村委員の所属を「明治大学 研究・知財戦略機構客員教授」に変更していただきたい。

【事務局】 小野健さんの資料がご自宅に大量にある。奥様から、活用してほしいと相談を受け、見に行った。特に写真が大量にあり（スライドケースで5,000箱くらい）、寄贈していただいて、環境の良いところに移して、データ化したい。書籍については書斎にあり、しばらくそのままとしたい。石については庭に置いてあり、貴重なものもあるので。

4 閉会 (16:20)

以上